

「法制史関係資料展」を開催

日時 昭和52年10月25日(火)～27日(木)

午前10時～午後4時

場所 附属図書館陳列室

資料 法学部所蔵の法制史関係資料約100点

上記法制史関係資料展は、法学部の協力を得て開催されたものであるが、数多い貴重な法学部の資料中このたびターナー、ハチェック、トゥールの三文庫と小早川文庫、日本法制史関係標本類の整理が済んだので、これを機会にそれら及び明治法制史関係資料の一部が展示された。なお整理作業は現在も進行中である。

「フランス新刊図書展」を開催

日時 昭和52年11月8日(火)～10日(木)

午前9時～午後5時

場所 附属図書館陳列室

上記フランス新刊図書展は、出版文化国際交流会との共催によって開催されたものであるが、会場には Art de vivre au coin du feu はか約2,000点の学術書その他が展示され、多くの来場者があった。

図書室めぐり

人文科学研究所図書室

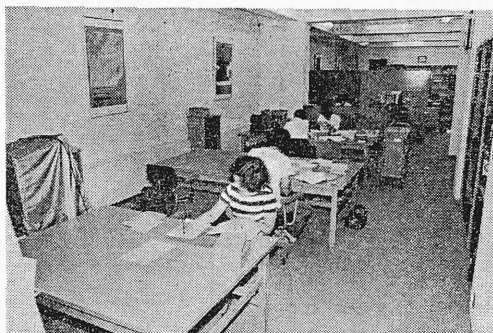
本研究所では、共同研究を中心に、これと並行して個人研究が行われている。図書室はこれらの研究活動に即応し得る体制と、機能の充実が常に望まれている。

1975年に待望の新所屋が完成した。この新書庫に永年の懸案であった分置図書を収容し集中管理を図るとともに、附属東洋学文献センター（以下センターという）をも統合し、図書室、センター双方の有する本来的な機能を明確にし、図書館活動、情報センター活動を強化することを企図していたが、スペースの不足のためその実現を見るに至らなかった。現在、日本部、西洋部関係書および洋書は本館、漢籍を中心に東方部関係書は分館に分置している。

図書・資料の収集は各部代表の図書委員が所員の意見を反映しつつ収集にあたっている。図書費の研究部門、個人への分割配当は行われていない。

1965年に設置されたセンターは、図書・資料の一般公開、利用を原則としている。これを契機に、従来所外者に対しては閉鎖的であった本研究所でも、段階的に門戸を解放してきた。図書館間相互協力、図書の相互利用が館界の趨勢となるに

およんで、学内者に対する所外貸出（漢籍を除く。）も実施し得るようになってきている。



しかし、近年利用者は激増の一途を辿っており、人手不足からのサービスの低下、図書・資料の破損への懸念、所員借用図書を利用に供することに対する批判を耳にする。また、図書・閲覧室の利用制限、漢籍の複写の可否等について検討すべきであるとの声も上っており、公開利用への道は必ずしも平坦ではない。既設の蔵書と設備を利用するといった安上がりのセンターでなく、施設、機能の充実したセンターの完成がいま強く要望されているが、本研究所でも将来計画の一環として検討に値する主要な課題であろう。